



ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8-4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel&Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

2024年11月18日

北九州市長 武内 和久 様
北九州市議会議長 田仲 常郎 様
北九州市教育委員会教育長 田島 裕美 様

一般社団法人日本イコモス国内委員会
委員長 岡田保良
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町3-26-8
神田小川町三丁目ビル4F
文化財保存計画協会気付
Tel/Fax. 03-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org



門司駅遺跡解体の決定に際しての日本イコモス国内委員会声明

件名のとおり、日本イコモス国内委員会は、門司駅遺跡解体の決定に際しての声明を發出いたしました。趣旨をお汲み取りいただき、遺構の保護にご理解を賜れば幸甚に存じます。

なお、こちらの声明文に関するお問い合わせは、日本イコモス国内委員会副委員長溝口孝司（九州大学教授）（Email: mizog@scs.kyushu-u.ac.jp）までお願い申し上げます。

1 添付書類

別添のとおり、声明文 1通

以上。



2024年11月18日

北九州市長 武内 和久 様
北九州市議会議長 田仲 常郎 様
北九州市教育委員会教育長 田島 裕美 様

門司駅遺跡解体の決定に際しての日本イコモス国内委員会声明

日本イコモス国内委員会は、門司駅遺跡の現地保存を求める多数の市民団体、および国際産業遺産保存委員会はじめ日本イコモスを含む多数の国内学術団体からの度重なる要請、さらには国際イコモス本部による最も強い警告にあたるヘリテージ・アラートにもかかわらず、2024年11月14日の北九州市議会建築建設委員会において、当該遺跡の解体工事に着手するとの報告がなされ、同15日に工事が着工されたことに対し、深い失望を表明し、強く抗議します。

門司駅遺跡は、明治時代における日本の急速な近代化と国際的展開の象徴であり、鉄道と港湾が一体として計画・整備された稀有な歴史的遺構です。2024年夏から11月にかけての追加発掘調査においては、明治期から昭和期にかけての門司駅の有機的展開を物語る遺構群が極めて良好な状態で出土し、門司駅遺跡の文化財価値は更に高まりました。

日本イコモス国内委員会は、11学会ととともに、現地保存が、この遺跡の真正な価値を未来に伝える唯一の方法であることを説明し訴え続けてまいりました。このことは、イコモス本部のヘリテージ・アラートにおいても表明されました。私たちは、遺跡の保存に関する専門家と市民との協議の場を設け、遺構の価値を再確認し、建設予定の複合公共施設との共存の方策の案出のために知恵を出し合う機会を設定することを、市当局に繰り返し要請してまいりました。しかし、これらの誠実な要請にもかかわらず、市当局は対応せず、極めて高い文化財価値が認められたこの遺跡の解体を強行しようとしています。この行動は、日本国憲法でも保障されている、現在と未来の市民・国民が歴史を正しく理解し文化財に接する文化権を、行政が侵害し奪うものであり、容認できるものではありません。

こうした事態は、日本の文化遺産保護における歴史的暴挙として、また多様な文化遺産を誇る我が国の文化行政ならびに「明治日本の産業革命遺産」を擁する国際都市北九州市に対する国際社会における信用を著しく失墜させた事件として、永久に記憶されることになるでしょう。

以上、日本イコモス国内委員会は、北九州市当局に対し、門司駅遺構解体工事を即刻中止するよう強く求めます。

日本イコモス国内委員会委員長
岡田 保良

